

はっぴマン・クニマン 1989 2月 No. 101

事務局: 下

澤田尚美方 TEL

編集人: 菊西よう子: 下

TEL

行物



2月のはっぴマン・クニマン

イソガシイ. いそがし 忙しい

どうしてそんなに
いそがしいの?

忙し その上

金銭感覚に はっぴマン・クニマンが抗議した。色々の影響がある。朝日新聞、共同通信社から取材を受けました。共同通信社を通じて A.P. 通信、ロイター通信社へも送られます。

賛同の声が色々に来まして。

長崎県婦人対策室長、上田さんより「全く同感、ありがとう」との連絡が来て

神戸にお住いの ますだてなえさんより

「賛同はする。本当にそうだと思う。女性を蔑視した発言は許さない。はっぴマンの会ががんばって下さい。」

その他、色々とお知らせがありました。

アテナは正確に断りあげ、いそがしい事は許す。怠りずと行こう。と気持ちをいしています。

(忙し その2)

新聞で「元は見出しをみつけ、

福岡市とその周辺にすむ女性達十数人が

大上段にふりかぶるのではなく、自分達の感じてゐる事を話し合ふという

と一月十五日の午後、福岡市婦人会館で集会を開くという。

その日で見ると、集会にはたまたまのあいさつがある。三日前に

ふと「アテナ」を聞いたら、びっくりしてしまふ。車を下りたミチコ

さんが深々と頭を下げて「お前とアテナとさんかえはう。車から降り

て歩きたまふ」といふ言葉を。エーッ、ふたつ「お前」と思わす目と

こすつてしまふ。次の天皇マキトさんへ創とらるる新天皇にな

る時、デビとみと男はあり。三人きりだ。じやないか。と

よく考えると男はじやない。皇位継承権は男の子だ。又二の頃、次々と

高円宮とか、税金で生活し、職業につかぬ家庭が出来てくると

おれも男ばかり。日本の男は、家族制度は崩れたはず。では

なになの? 憲法に「国の象徴」と記してゐる人々の暮らし方は、

いかに違ふか? やないか?

又、あんなにやんちゃは三つ言ふ。彼等の家族の形が松葉に押

なまて! 天皇制のこと

福岡の女性ら
集会を
準備中

感じたまま
話し合おう

タブー視せず
井戸端会議

アジアの女たちにとって、日本の女や男たちは、どんな風にみえるのでしょうか？「アジアに来る日本人は、昔は單人。今はビジネスマンがツリーズトばかり。友人として来れないのですか？」松井さんは、シンガポールでこう問いかけられたそうです。又同様に、日本に来るアジア人は、日本人が厭う「いゝゆるな三き、きけん、きたない」に、きつい仕事を、男性のアツ

松井 やより

會演講

ところ 教育文化会館

参加費 ￥500

主 催 松井 やより 講演会
実行委員会

連絡先 葛西 45-1350 柳沢 23-866

2月14日付「朝日新聞」に「ニ」の言ひ
事を見付けました。うれしかった。
やはり日本の男性の中にもヤング
ーフがいました。とてもうれし
い。ニへ返り付けてしま
いました。

アミアの友達を知り得、 $x=1$
 かかり日本人のあり方を知り得
 それは私達 々の意識の更新
 をいやなく要求する事です。
 だいたい、かかりたの
 のです。アミアに、

松井耶依(やより)

東京都に生まれる
1961年東京外国語大学英米科卒業。在学中、
米國・ミネソタ大学、フランス・ソルボン
ヌ大学に留学
1961年朝日新聞社入社。社会部記者として福
祉、公害、消費者問題、女性問題などを取材
1981〜85年シンガポール・アジア総局員
現在一橋日新聞編集委員。「アジアの女たち
の会」会員
著書「現代を問い直す旅―海外の市民運動」
(朝日新聞社)
「女性解放とは何か」(未定社)
「人民の沈黙―わたしの中国記」(すざわ書房)
「現にふれるアジア」(朝日新聞社)
「女たちのアジア」岩波新書(岩波)

谷口和憲さん

アジアでの買収に反対する
「男たちの会」をつくった

ひと

夢姫與生まれ。福岡、大阪で育ち、80年、法政大学社会学部卒。古典芸能関係の出版社の営業部門で働き昨年末、退職、フリーに。「男たちの会」世話人。34歳。

女のギャップに、がく然とした。女性たちは性の問題をこんなにも真剣に考えてい

「新宿の歌舞伎町などを見ると、日本の男性たちの精神構造が分からなくなる、モンスター（怪物）みたいだ、と出稼ぎ女性問題に取組むフィリピン女性からいわれて、男同士まず話し合おねばと。」同じ講演を聞いた「男の子育てを考える会」の人たちと意気投合して「アジアの売春婦に反対する男たちの会」を旗揚げした。

保父、学生など二、三十代七人が中心メンバー。「アジアの売春婦と日本の男たち——われモンスターと呼ばれて」というスライドを自主制作。かつての従軍慰安婦から視光買春、アジアからの出稼ぎ女性までを映像で追い、日本の男性に訴える。

「アジアへの性侵略の歴史に終止符を打ちたい。他人を踏んでいる自分の足をどうしたらのけられるのか。男性が自分自身の性を見つめない」と……

自ら、二十代に買春の経験も。「人権問題に関心を持っていたので、女性に対してなげこんだことを、男の性に疑問を持ち始めた」。本屋で女性解放の本を手にした。「性に対する受けとめ方の男とらえている」

「男の性を見つめて」という連続講座に通い、ボルノ、レイプ、痴漢、性風俗産業、さらにアジアの売春婦にアジア蔑視が重なり、さらに過去の戦争の歴史にもつながる。ただここでない問題とわかった」

女性たちの売春親光反対運動に十五年遅れて始まった男性の運動だが「女性への同意」というより、ほくたたちが解放されるためです」

（松井やより編集委員）

差別は
もともと断たなきやダメ！

ヒロヒトくん。



女は天皇制がきらいだ！

このシールは、ぼんやタシの二人が
 せうせん、おのれのザルをかき入手し
 てくばつたものなり。かやうでは、

しつけられる イヌジブけられる 程父、程母が別居して、家には父を母
と三人の子供、永が本考の家産館の子すよ、といふイヌジブが子で、新聞
料にスチール新聞、女性週刊誌等を通して意識の中に刷り込
まされてゆく、母子家庭、離婚家庭、その他ははみ出した存在なのて
すよ、とギヤンパーンされてゆく。

さあ丁度休みの日、長し行つて見ればうと三人のばちやマシ
達、は橋向へ行きたりしに、おととやと来るは、お台返り女

長崎でも「4の井戸端会議」をします。市民運動のたぐいの
団体が行う2月24日の行事の一部になるのですが、司会その他
はアトムやマン達の手で行います。天皇制を廃止!と思っている人の
意見もぜひ聞きたいと思っています。

天皇制をたもつて!

おんなの井戸端会

天皇、天皇制のことを女の視点でとらえてみ
ると……？

「おかしいな」とか「絶対許さない」という
 思いの文を、普段の言葉で、感じるままにぶつ
 けながら、いよいよ考える場へしたいと思
 いします。いよいよしゃべりたい人も、そうじ
 ゃない人も、もちろん、男性も大歓迎です。
 ぜひ、いらして下さい!!!

2月24日(金) 2:00~5:00

教育文化會館 1.7

連格先/ (56) 5323 大城

達。そして言はし事があるから来なとアツタ。ゲルな若い
大學生から中卒迄の男達。自分の職場で地域で、役付で居る
いゝ内容の多と身近かな所。天皇制が果々いゝ。役割が次々とい
詰る。水たのしい。熱の入った三時間半でした。最後に代わり行身
華儀の費用、百数十億円の税金からの支出と反対する電報を
首相宛に打つ事。歎念しました。

(当日の親兄は若くは母さん二人と一人の高校生の子のホラ
ティアでしたと発表されて大拍手。)

(はし 494)

「女のノート 3年」 ほんど売りつくした! 感謝!

昨年の秋、事務局の床の上に うず高く積み上げられた女干部の「女のノート」
これが果に売れるだろうか? 皆に反押ししてもらえるだろうか? とわああがって来る心配の念を
ばってん・マン連は 押えおれずに 目もめたものでした。

それが 前、床の上は ガラス としています。愛用して下さっている皆様ありがとうございます。ノートは今や
りの3年間で、かまはうてつて下二二。そして自分とみつめ、自分の生活を見つめ、一歩一歩、
意識の改革をして行きます。

2月20日、津田、葛西の2人は下駄の様なお礼状を持ち、お世話になった所、特に報道
して下さり、全国からの注文を受けるきっかけを作ったマスコミ各社の所を訪問しました。
皆様本当に ありがとう ございました。

前略 皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さて
昨秋 私達ばってん・うーまんの会が日記帳「女のノート3年」を 発
行いたしましたときは、一方ならぬお世話に預かりましたことを、厚く
御礼申し上げます。

お蔭様で前回にもまして色々な方々からの申込みがあい続きまして、
私どもが用意いたしました冊数に、まもなく届こうとしているところで
す。

私達は「女のノート3年」の収益金を、すべての女性の方々の意識向
上に役立てたいとの趣旨の下に、前々回より市立中央公民館図書室に《
ばってん・うーまん文庫》を設置し、図書を寄贈いたしております。今
回もノートの発送事業が完了次第ひきつづき図書の選定作業に入り、1
年後には新しい図書の寄贈を行なう予定でおります。斬新な目で、これ
からの女の問題を見詰めた本のお心当たりがありましたら、どうかご推
薦下さいますようお願いいたします。

私達は、今後も女性の地位向上のため、また女性が生き生きと活動で
きる地域作りのため微力ながら活動を続けて参りますので、どうか今後
ともよろしくご支援下さいますようお願いいたします。

長崎県 婦人対策室へ申し入れ

向もはく3月、卒業式がやってきました。県下のある小学校で「私のクラスの入場は女子を先にする」と
申し出た受持ちの先生が、教頭先生の反対にあてなやっています。そこで県の婦人対策
室に相談に行きました。「男子が先、という事が決まっていたり、通達されている等がありま
せん。個々の学校、学級の個別的あり方でいい筈です。男子が先という様子をカバロウが
様、教育委員会へ申し入れをお願いします」と室長さんのお話でした。習慣を変える力はこれやが
必要。カバロウ 不。